

## 令和 2 年度 第 1 回総合教育会議 議事録

### 1 日 時

令和 2 年 5 月 29 日(金) 午後 2 時から午後 3 時まで

### 2 場 所

市川市役所仮本庁舎 4 階 第 3 委員会室

### 3 出席者

村越祐民市長、田中庸恵教育長、平田史郎教育委員、平田信江教育委員、  
島田由紀子教育委員、大高究教育委員、山元幸恵教育委員、関係職員(17 名)

### 4 議 事

- (1) 遠隔教育の在り方について
- (2) その他

### 5 議事概要

#### ○市長

ただいまから、令和 2 年度第 1 回市川市総合教育会議を始めさせていただきます。本日はお手元の次第のとおり、「遠隔教育の在り方について」を議題としております。教育委員会の皆様におかれましては、学校の迅速な休校、そして 6 月 1 日からの再開までの間、児童生徒から感染者が 1 人も出ていないということで、現場のご理解と委員の皆様のご協力のおかげとっております。引き続き、このコロナ禍の中で教育の遅れが出ないように、本日の議題でもあります遠隔教育を生かして、この間に皆様のご尽力で進めていただいた中身をさらに力強く進めていくということもご議論いただければと思っております。

それでは、会議に先立ちまして、市川市総合教育会議の運営に関する要綱第 6 の 4 に基づき、会議の公開・非公開の決定を行いたいと思います。議題につきましては、非公開事由に該当するものではないと思いますので、会議を公開することとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

————— 異議なし —————

ありがとうございます。

なお、本日は報道関係の取材が入りますので、ご了承いただければと思います。  
本日は傍聴希望の方がおられますでしょうか。

————— 傍聴者 4 名 —————

コロナ禍ということで、遠隔で傍聴いただきますので、ご理解をいただければと思います。

## ■議題 1 遠隔教育の在り方について

### ○市長

それでは、議題 1「遠隔教育の在り方について」の協議に入ります。

遠隔教育をはじめとする、ICT を活用した教育や授業について、委員の皆様のお考えをお伺いしたいと思います。まず、共通認識を図るために、市内の休校中の現状について、説明をお願いいたします。

### ○教育長

それでは、私からお話を申し上げます。ここで、これまでを振り返ってみたいと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、本市では2月28日から、いち早く一斉休校措置をとりました。休校当初の学習課題は、プリントやワーク類など、紙ベースが中心でした。その後、休校が長期化したことにより、オンライン学習が注目されるようになり、オンライン学習に対応できるよう、ICT環境が整っていないご家庭への貸し出しのため、6,000台分のタブレットとモバイルルーターを緊急経済対策の一環として予算化したところです。現在、学校は YouTube で授業動画を配信していますが、今後は双方向のオンライン学習が求められます。

これらの経緯を踏まえ、これまでの市川市教委の取組を示しつつ、現状を洗い出し、成果と課題を明らかにしていきたいと思っております。休校以来、本事業にかかわってきました小倉学校教育部長から補足説明いたします。

よろしく申し上げます。

### ○学校教育部長

それでは、私のほうから説明させていただきます。

今、教育長よりお話のありました学校の授業動画ですが、多い学校では 1 ヶ月半の間で 150 本の動画を配信しており、この間 ICT 教育への関心が一気に高まったと感じております。このいわゆるオン・デ・マンドの一方向的な動画でも十分効果はありますが、双方向ですと

子どもの反応や様子がわかるという利点がございます。今後、すべてを双方向とするのは健康面など小中学生への課題があるものの、他の教材との適切な組み合わせによって効果があるものと考えています。学校が再開されましても、新型コロナウイルスの影響は長期化するとの見方がありますので、タブレットが調達できる 7 月から実際に学校で双方向のオンライン学習の練習などをして、教師も子どもも慣れるところからはじめていきたいと考えているところです。

教育委員会が行った調査によりますと、ほとんどの家庭がインターネットに接続できる環境が整っているものの、パソコンを兄弟で使っていたり、保護者がテレワークでパソコンを使用しているため必要な時間に子どもが使えないという家庭は全体の約 2 割程度ございました。理想的には、児童生徒 1 人 1 台のタブレットが支給されて、家庭の ICT 環境が整備されることが前提となりますので、タブレットの調達も含めまして環境を整えるまでには時間がかかりますが、着実に進めてまいりたいと考えております。

## ○市長

ありがとうございました。それでは、ただいまの教育長と学校教育部長のご報告を踏まえて、協議に入りたいと思います。委員の皆様から順次、ご意見をいただきたいと思います。ぜひ、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

## ○平田(史)委員

学年の変わり目に新型コロナウイルスの感染拡大防止による休校状態に入ったため、新入生は連絡の手段すらない状況でした。その中で、私の経営する学校では徐々に連絡をとってなんとかビデオの授業配信を中心に行っております。基本的に、中学校の場合は学年単位で一つのビデオの部屋をつくっています。高校になりますと選択教科などがありますので、クラスごとに異なるビデオの部屋で授業の配信を行っております。多いクラスですと 200 コンテンツほど入っており、中学校と合わせて数百以上のビデオ配信による授業を展開しています。ただ、それを子どもが見て十分理解して頭に入れているかわからないので、学校が再開したのちに、点検をしながらどこまで戻りつつ授業を行うかという判断をしなければならないと考えています。

また、双方向での通信について、中学校の職員会議や、高校生の三者面談等を Zoom を使い双方向で行っていますが、1 クラスの授業等となりますと、Zoom では 9 マスしか映らないので、全員の顔を見ながらというのは少し厳しいというところと、Wi-Fi 環境の関係で、Zoom が切断してしまったりする子がいるので、もう少し熟練が必要かなと思います。ただ、

一つ言えることは、新型コロナウイルスの感染拡大による良くないところはたくさんあるのですが、唯一学校現場における良いところは、教員が ICT について必要性を感じているところです。私の学校は小中高で約 140 名の教員がいるのですが、Wi-Fi 環境がない教員が 2 名いましたし、スマホも持っていない教員もいました。やはり自分のクラスをもって子どもが来ない状況の中でどうすればいいかということで、ICT を勉強して、慣れない教員でも授業のコンテンツを作っております。このように唯一の良いところは、教員が ICT に目を向けた、これを使わなければいけないという場に立たされた、ということではないでしょうか。

双方向での遠隔授業というのはかなり課題があり、その辺りは実際に授業を行っている島田委員にお話を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

## ○島田委員

大学では今 3～4 週目の授業が終わっているところなのですが、実際に Zoom で授業を行っております。私は 50 名と 100 名の授業を担当していますが、同時に録画もしており、通信環境が悪かった学生のため、1 週間だけ後でも見られるようにしています。動画として録画されるので、顔出しをするかどうかという問題があって、基本的には顔出しはしないということにしているのですが、演習の科目だと教職員のほうから顔を出してやりたいということを学生にお願いして、顔出しの状態でも授業をすることもあります。

いくつか問題点があって、入室してくる学生が果たして本当にうちの学生かどうか、というところがあります。必ず学籍番号と名前を入れて入室してくるように言うのですが、時々何度言っても変えない学生がいて、本当にうちの学生かどうか分からない場合が数件見受けられます。

また、映っている自分のパソコンやスマホの画面の写真を撮り、SNS 等にアップロードするという可能性が考えられます。実際に twitter を見ている、他の大学でいくつか見受けられたので、そういうことをしてはいけない、という話をどの授業でもしていたと思います。配布資料についてもそういうことをしてはいけないという話は、時間をかけてしていました。

さらに、配慮が必要な学生もいて、今までですと周囲の学生など誰かがついてということが出来るのですが、家庭で受講していることから、保護者の方がいらっしゃるかと思うのですが、そこで授業が中断してしまうということがありました。各中学校で配慮が必要な児童生徒に対してはどのように行っているのかということが気になる場所でした。

授業としては、繰り返し動画で確認できるということと、授業で 1 回 1 回課題を出していることに対して教職員がコメントなどを返していくので、学生の満足感はとても高く、思ったより好評、良い意見が上がってきています。

Zoom で顔出ししなくても、チャットでこちらから質問すると、質問したことに対してちゃ

んと返してくれますが、50 名が限界でそれ以上は他にサポートする教職員が入らないと、途中から入室してきたり、通信環境が悪くて落ちてしまった学生が戻ってきたときに、私に対応できないということがあります。教職員が準備も授業も大変になってくるので、そのフォローはお願いしたいところだと考えています。

## ○市長

ありがとうございます。今、平田(史)委員と島田委員のご意見はとりわけ公教育以外の先駆事例で、また課題を明らかにしていただき、大変ありがたいと思います。私どもも庁内でテレワークを行っています。遅ればせながら DX を進めていましたので、オンラインで会議をする体制等ができ、職員 3,200 名おりますがまだ感染者が出ておりません。やはり、平田(史)委員がおっしゃるとおり、否応なしに ICT 化を進めなくてはならない環境になっていき、教職員の皆様からすると対面で児童生徒の顔を見ながら指導するというのが基本だと思いますので、いきなりタブレットが入ってもいろいろな抵抗感がおありでしょうし、またこれまでの指導の強みがなかなか出ないのではないかという戸惑いもあると思います。先ほど、学校教育部長からお話がありましたとおり、5 月議会の補正予算で先行的に計上させていただいた 6,000 台をまずは整備して準備に充てたいと思っています。それで教職員の皆様に慣れていただき、6 月議会で 1 人 1 台体制に踏み込もうとしています。Wi-Fi が切断されてしまうなどといったことも十分考えておかなければいけないと思いますし、きちんと保護者の皆様の理解をいただいたり、あるいは一番注意しておかなければいけないことは、先ほど画面を SNS にアップロードする等、ネットリテラシー、礼儀やプライバシーの問題等、様々な問題が出てくると思いますので、そういったところの指導もあわせて学校からすることができれば、これは教職員の皆様の大きな負担になりますが、将来インターネットを使って仕事をする上で良いトレーニングにもなると思いますので、ぜひ大学や高校、私立学校での先進的な取り組みを我々も十分勉強して、公教育といえども高等教育や私学の先行事例に負けないようなスタイルをとりたいと思います。

## ○平田(信)委員

現代において ICT 機器の活用は必要不可欠であると感じております。今回、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、スピード感をもって進めることになってしまったので、本来であればゆっくりとじっくりと進めなければいけない部分が、スピードがあるがゆえに見落としがちな部分もあるのかなと考えています。今、次男が高校 1 年生でタブレットを使ってリモートでホームルームと 40 分 3 コマくらいの授業をやっていますが、少し通信環境が悪くなったりすると、自分ではどうにもならない、私も聞かれてもわからないというところもあって、そ

ういう時はどうしたらいいのかだとか、おそらく軌道に乗ってしまえばこういった問題もクリアできると思いますが、スピード感を持って進めていく中でそういった初期段階の問題をどうやってクリアしていくかも大事だと思っています。

中学2年の三男は塾で90分1コマをリモートでやっていますが、これは講師対児童生徒がほぼ1対1でやっているのですごくうまくいっていると今のところ思っています。今、6,000台を整備するということですのですごくありがたいと思っています。ゆくゆくは1人1台ということで、Wi-Fi環境も整えたところで問題になってくるのは各家庭の住宅事情であるとか、家族事情であるとか、そういったところも出てくるのかなと思います。私は一番下が中2で大きいので、そばで騒ぐ小さい子がいないのですが、下に小さい子がいる家庭は、集中してリモート授業を受けられる環境を作れる家庭と作れない家庭が出てくるのではないかと思います。あとはご両親が働いていて、お子さんが1人でそういった授業に参加しなければいけない時に、どういうふうにするのか、困ったことがあったときにどうするのかといったことも考えていかなければいけないと思います。

小中学生ですので、ズルをする子はいないと思いますが、堂々といなくなったりだとか、堂々と遊んでしまう子は出てきてしまうと思います。その辺りは教職員の力量でうまくやっていけたらいいのかなと考えています。

## ○市長

ありがとうございます。休校期間中に保護者の方々から多数ご意見をいただいたのですが、一番多かったのは児童生徒がお友達と連絡を取るような機会がなくなってしまって、非常にストレスを感じているので、できる限りオンラインでホームルームを行う等、子どもたちが何か触れ合うことができないものかというようなご意見を多数いただきました。また、一生懸命動画を配信していましたが、なんとか双方向で教職員から個別の指導ができないものか等、やはり市民や保護者の皆様からより踏み込んだ要望をいただいていたので、この機会にぜひ課題を整理して、万が一新型コロナウイルス感染拡大の第二波が来た時に、市内の教育に遅れが出ないように体制を整えておくということがきわめて重要だと思っています。大変ありがたいご指摘だと思います。

## ○山元委員

市長のほうから公教育においても私立等に負けないように推進していきたいと力強いお言葉をいただき、大変ありがたく思います。教育格差ということは、ICT化が進めば進むほどある意味怖いと認識しています。実は今回、新型コロナウイルスの感染拡大によって、学校が嫌でもICTと向き合わなければいけないということ、一つ良いとすれば教職員が本気で変

わらなければいけない、そういう場に立たされたということはまさにそうだと思います。私も長年教員をやっていますが、どうしても紙と鉛筆、マジックに模造紙の世界から抜け出せない現実がありました。ICT の推進ということで今までも取り組んでいただきましたが、どうしても手軽なそちらに流れていたものが、もういよいよ待ったなしだということが一つです。

そして、これからの時代を生きていく子どもたちが、本当に情報機器を自分たちの力で使えなかったら、社会の中で生きていけない人間になってしまうと思っています。私たち教育者は、正しいかどうかはわかりませんが、社会に出て自分で生きていける子、言い方を変えれば納税できる子を育てるのが私たちの使命だと思っています。仕事に就いて自分で納税できるようになるためには、昔は読み書きそろばんと言ったかもしれませんが、これからの時代はおそらく ICT に対してどこまで自分が使いこなせるか、あるいはそれを使ってどう自分を表現できるのか、そういった力がものすごく必要になってくると思います。ぜひ公立学校にいる子どもたちもそういったものをしっかり 9 年間の中で学べる環境をつくれたら、それが何十年後かに、大人になってまた納税者として返してくれると思うので、ぜひ今後ともご支援をいただければありがたいと思うのが一つです。

もう一点、自分は昔、コンピューターの導入などにも関わったことがあるので、すごく気になることがあります。市川市は学校の図書館の活用が非常に進んでいるのですが、それはなぜかというと学校図書館員という人がいるからです。そこに人がいて、図書館をどう使ったらいいか、常に子どもたちや教職員たちと一緒に考えてくれる人がいるのです。ところが、コンピューターが導入されて、実際学校に丸投げですと、学校は正直どこも忙しく、考えることがあまりにも多いので、コンピューターを常に管理し、新しい色々なサジェスチョンをする支援員がそこにいるかないかで全く変わってくると思っています。せっかく入れるのであれば、それを活用できるようにしなければ意味がないので、学校図書館が機能するために学校図書館員がいるように、ICT 教育を推進するのであれば、それを支援するための仕組みを同時に考えていただけたらありがたいと考えています。

## ○市長

背中を押していただき、またお褒めいただきありがとうございます。大変不謹慎かもしれませんが、今年の 2 月くらいの時点で、新型コロナウイルスの感染拡大というのはピンチですけれどチャンスかもしれないという話を職員にしました。従来であれば市職員が役所に出勤しないでテレワークをするなど考えられなかったと思います。それを今や出勤する職員を 7 割減に近づけようと頑張っていますし、新型コロナウイルスが去った後も新しい働き方で、せっかくこういう機会を得たので、もっと効率を上げていろいろな新しい取り組みをしよう

ということで今やっています。ですので、教職員の皆様は大変だと思いますし、子どもたちはいろいろつらい思いをしていますけれど、ぜひこの機会を通じて、タブレットはある種、薬になり毒にならないように、教職員の皆様の指導方法を強化するような道具として、子どもたちの個別の学びに応じた、よりきめ細かい対応をすとか、あるいはどうしても学校にこれない子どもの勉強の遅れが出ないようにすとか、いろいろな良い面に使えると思いますので、ぜひそれを教職員の皆様をお願いしたいと思います。コロナ禍で私も教育委員会の皆様に背中を押されて踏み込もうという気になったのですが、従来の教育 ICT 化という文脈で教育委員会に考えていただいていたことに対しては、実は非常に懐疑的でした。しかし、いろいろなデモを見せていただいて、その中でもとても良いと思ったのは、子どもたちが班をつくり、タブレットを持って梨農家に行き、梨の作り方を調べて発表するというをやります、という話を聞いたのですが、そういうものは山元委員がおっしゃるところの、将来社会に出た時のプレゼンテーション能力であったり何かをまとめる能力など、いろいろなことに役立つのではないかと思います。例えば市川市は様々な市町村と災害協定を締結していますけれど、熊本県宇土市は地震で国から支援があって先行してタブレットが入っていると思いますから、そういった学校の児童生徒と発表しあうなど、今までできなかったことができるようになり、友達の輪も広がっていろいろな良い効果があるのではないかと思います。支援員のお話は教育次長以下いろいろなことを考えてくださっているみたいですし、国もサポートするようなことを言うてくださっているので、現場で教職員の皆様が困らない、あるいは子どもたちが正しい使い方をきちんと身に付けてもらうためにしっかり指導ができる体制を手厚く作らなければならないと思います。

私事で恐縮ですが、本のお話をされたので一言付言したいのですが、コロナ禍で次男と家にいる機会が多くなったので、一緒にコンビニに行きました。私の次男は YouTube ばかり見ている、非常にまずいなと思っているのですが、コンビニに買い物に行ったら、並んでいる本を見て、それを買ってくれとせがまれたので、面白いなと思って「きつい仕事」という本と、「実は意味が怖かった漢字の起源」という本の 2 冊を買い与えました。「きつい仕事」というのはいわゆる交通量の調査とか、薬の試験的投与を受けてどうなるかとか、いろいろな現場仕事だったり、そういう仕事を記者が取材している本で、「実は意味が怖かった漢字の起源」の本は、例えば祐民の「民」は非常にいろいろないわくがあるとか、そういうことが書いてある本で、それを読んですごくいろいろなことを私に話してくれて、私もそれを読んでみたらすごく意味のある本でした。そのやりとりを通じて思ったことは私の子どもがいくら YouTube を眺めたところで、そういう本に関心を持ってきている限り、この子の知的好奇心の芽は摘まれていないんだということで安堵しました。なおかつ、読書から得られる知識というのは YouTuber から得られる知識とはやはり深さが違うと思うのです。ですから、



子どもたちに本といかに向き合ってもらおうかということは、タブレットを導入してもしっかり子どもたちに伝えていかなければならないと改めて思った次第です。ですので、ぜひ図書館の運営を含めて、しっかり子どもたちに本と向き合っていただく機会を、またいろいろな企画を市長部局のほうでも考えてまいりたいと思います。

## ○大高委員

ICT の重要性に関しては委員の皆様のおっしゃるとおり、推進していかなければならないということはよく理解しております。今まで、市長をはじめご努力いただき大変ありがたいことと思っておりますので、この先また進めていっていただきたいと思います。

ただ、職業上、ほとんどの委員会や会議が Web 会議になって、その便利さは非常に痛感しているのですが、いくつか問題点があると思いました。

一つは、使えない委員がいるということです。そういうことに慣れていないと、トラブルなどがあつた場合にせつかくの会議ができません。これが現在の教育にどう関係するかはわかりませんが、教職員の皆様もそういう意味で切磋琢磨されているということは非常に素晴らしいことだと思います。教育に関しては教職員の皆様に頑張ってもらって、子どもたちや家庭でも努力をされていけば、そのようなトラブルはなくなっていくと思います。

もう一つ、Web 会議は便利だけれどその場の空気が読めないという意見が出たことがあります。我々は成人だけで子どもは入っていませんが、色々な意見が出ますし、画面も映っていますが、表情や空気が読めないのが意外と会議の時間だけがかかってしまい、実りが少ないということが時々感じられます。このあたりが教育とどのように関係するかはわかりませんが、双方向の重要性や実際の人と人との関わりというのも並行して考えていかなければならないと思っています。人と人との関わりが大切であり、保護者の皆様もそういうところに疑問や不安を感じていると思いました。

それから、市長もおっしゃっていましたが、私は古い人間ですので、アナログの良さ、紙ベースの良さというのはすごく昔から子どもたちにも言ってきたので、もちろん ICT は大事で、これから不可欠だということはよくわかっているのですが、昔からある本の重要性、自然との関わり、今の子は外で遊ばなくなつて、昼夜ゲームにのめり込んでいる子も多いと聞きますから、人間生活が昔に戻らなければならない部分も一緒に考えていかなければいけないと思っております。

## ○市長

ありがとうございます。やはりタブレットが教職員に置き換わるということは未来永劫ないのだと理解しなければなりませんし、教職員の皆様、教育委員の皆様が市川の教

育というのを培ってこられたわけですし、それをあくまで補強する道具にとらえて、なおかつこれだけデジタルが進めば進むほどアナログのメッセージの重要性、パンチ力が強まると私は思います。Web会議で発言することよりも、実際の会議で空気を読みながら発言することだったり、電子メールや「〇〇チャット」で送るメッセージより、手紙を書いたほうが伝わるメッセージが強いと思います。余計にアナログのメッセージ、あるいは現場で教職員が直接児童生徒に伝えるメッセージの重要性は増していくと思いますので、そこを皆様と共有させていただいた上で、ICT化を進めていけば間違いないのではないかと思いますので、そのあたりは私も肝に銘じて仕事をしたいと思います。それでは、最後に教育長より総括をしていただけますでしょうか。

## ○田中教育長

私からは、お話を聞いての感想やICTに係る問題提起を申し上げたいと思います。

はじめに、各教育委員の皆さんから、成果、課題、ご意見やお考え、ICT使用上の不具合、期待すること、アナログの良さ、市長からのアドバイス等を基に、今後のICT事業に反映させていきたいと思います。

感想となりますが、様々な分野でインターネットの活用が進んでいますが、今回のコロナによってICTの活用が社会的関心事となりました。オンライン診療や、報道でよく見られるオンラインによる情報発信など、分野は多岐にわたっていることを改めて知らされたところです。学校にあっては、長期間の休校という、これまでにない状況から、教育での活用がより注目されるようになりました。海外では既にオンライン授業が整備されている所が多く、欧米諸国に学びました。日本が出遅れていることを痛感した次第です。国、文科省は、令和5年度までに児童生徒一人1台の端末整備を目指して計画していました。それはGIGAスクールと呼んでいますが、コロナの件で計画を前倒し、本年度中に整備を目指すことになっています。GIGAスクールに期待されることは、単に教育の質的向上を目指すのではなく、これまで長年にわたり営まれてきた学校教育をベースに、見直し、改善を加え、より良い学校教育の在り方を模索することにあります。これまでの黒板とチョークに頼り過ぎることのないように、警鐘を鳴らしているのかもしれませんが。最後に、遠隔教育について若干触れます。遠隔教育は不登校の児童生徒への授業支援、また、先生が出張や用事等で学校を空けて授業が欠けてしまった場合、例えば授業進度が同じであれば、自習ではなく、隣の先生の授業を遠隔で学習することも可能ですし、本市が行っているドイツ・ローゼンハイム市との交流学习や交信においても、有効活用できるものと思います。以上、感じたことです。

ここで、先ほどお話ししたGIGAスクールについて、少し説明させていただき、この後の協議における問題提起になれば幸いです。

事務局、資料を配ってください。

はじめに、プリントの中央をご覧ください。国が提唱するGIGAスクール構想ですが、一つは児童生徒一人1台のタブレット端末、もう一つは高速大容量の通信ネットワーク、この二つを整備することです。このGIGAスクール構想を通して、多様な子どもたちを「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」の実現を目指すことがねらいです。「個別最適化」とは、その子にあった学び、子どものニーズに応じていく学びと捉えていただけると分かりやすいかと思います。まず、プリントの上の黄色の部分ですが、令和2年度では一人1台のタブレット整備のため、32,000台のタブレットおよび大型提示装置、中学校には既に配備済みです、それから無線LANを整備します。加えて、黄色部分の右端ですが、動画配信、オンラインでの学習を中心に取り組みます。令和3年度以降は、ピンク色の部分の、一つ目は授業改善と授業支援です。ここでは、児童生徒を含めた教職員の意識改革も図っていきます。二つ目は不登校、在宅支援です。三つ目は個別、習熟度別学習、四つ目は特別支援教育です。二つ目、三つ目、四つ目は個別最適化に対応しています。これらの取組が充実していくものと考えています。具体的な内容はピンク色の下の枠内に示してあります。ご参照ください。右端の下になりますが、さらにICT教育が充実し、数年後には学校図書館の電子化、家庭との連絡デジタル化が進み、従来の学校の在り方も変わっていくのではないかと考えます。また、プリントの一番下になりますが、校務支援システムに蓄積された成績等のデータを教育ビッグデータとして活用することも期待できます。教育ビッグデータとは個々の子どもの様々な学習履歴をストックし、例えば、小学校の1年生から中学校の3年生までの個々の子どものつまずき、伸び代など、授業者が必要に応じて活用することで、その子にあったより適切な学習支援が可能となるデータバンクのことです。個に応じた質の高い教育が提供できます。しかしながら、ICT教育が充実していても、タブレット端末は学習のツールの一つであり、全ての教育がICTに替わるものではないということを肝に銘じておく必要があります。ですから、教職員が本来身に付けておかなければならない指導力、授業力はこれからも必要であり、普遍的なものであります。ICT機器の活用を進めていくことで、従来からある問題解決学習や調べ学習等の充実を下支えし、学校教育全体の質的向上が期待できるものと考えます。以上、今後の協議の問題提起とさせていただきます。

## ○市長

ただいま教育長から授業改善や児童生徒を含めた教職員の意識改革ですとか、個別の児童生徒の習熟度に応じた学習支援であったり、いくつかポイント、テーマが出ましたのでこれに関して残りの時間でご意見を賜りたいと思います。よろしく申し上げます。

## ○平田(史)委員

大変、素晴らしいことだと思います。それから、もう一つ別の視点をお話したいと思います。

東金市の千葉学芸高校は日本でも一番早く双方向の授業展開をした学校だと思っています。昔からコンピューターに力を入れていますが、そこではラップトップとタブレットの 2 台持ちなのです。あらゆる計画の中でタブレットしか出てきていないのですが、私はラップトップがむしろ重要になってくるのではないかと考えています。なぜなら、英語の検定試験でも、Toeic CBT でも、コンピューターベースの試験をします。それはタッチタイプが早くないと駄目なのです。おそらく、こういう時代になってくると、これから大学入試などでもコンピューターベースのテストがどんどん入ってきて、場合によっては会場に行かずに自宅から回答するような形が先行することになると思いますので、そうするとタッチタイプの能力はタブレットをいじっていただけではつかないのです。読み書きそろばんということで考えるのであれば、キーボードを早く打てる能力というのもこれからの ICT 教育というのには必要だと考えます。いずれにしても、こういった教育は多様ですので、なかなかお金もかかりますし難しいと思いますが、いろいろな視点で見ていく必要があると思います。

## ○市長

ありがとうございます。今、ご指摘の点ですが、ある識者が「タブレットはダメなんだ、ラップトップじゃないとダメなんだ」ということを何かでおっしゃっていて、もしかしたら今平田(史)委員のご指摘の根拠になっているのかと考えていた次第です。ぜひ先行事例について私も勉強させていただきたいと思います。宿題とさせていただきたいと思います。

## ○平田(信)委員

平田(史)委員のおっしゃるとおり、この通りにいくと素晴らしいと思います。ただ、どんな道具もそうですけれど、うまく使えばとても便利ですし、人生を豊かにするものになると思いますが、最終的に教育は人を育てるものですので、人対人というのをベースにして、こういったものをフルに活用していけばとても素晴らしいものになるのではないかと感じています。

あと一点、先ほど新型コロナウイルスの感染拡大で 3 ヶ月休校した中で、子どもたちが友達と遊ばなくてかわいそう、というご意見があったところですが、私は自分の子どもたちをあまりかわいそうと思っていません。というのも用意された休みでなくて、終わりがなかなか見えない休みの中で、外にも行けない、友達とも会えないという時間をもらえるというのはおそらく最初で最後であろうと思いますし、なかなか人生の中でないことだと思います。その中で子どもたちは何をしていたかという、ものすごくいろいろ考えたと思います。一

見、ぼーっとしているように見えても、今日は何しよう、外にも行けないし、すごくいろいろ考えて、三男なんかは行動力があるので、料理をしてみたり、YouTube で見た科学実験などをしてみたりしていました。次男はおっとり派なんですけど、ぼーっとしているようでいろいろなことを頭の中で考えていたり、すごくいい時間だったと考えています。決してマイナスにとらえず、おそらく何年か先に、コロナ世代の子どもたちが大人になって、コロナ世代の子たち、と言われる時代が来ると思うのですが、私はいろいろな発想ができる子になるのではと、とても楽しみにしています。

## ○市長

ありがとうございます。確かに、何事も行政として前向きにとらえて、子どもたちにネガティブな姿勢を大人として見せるわけにはいきませんので、何かいいことに結び付けていくことにすべての仕事を進めていかなければいけないと改めて思った次第です。私も家で料理する機会が増えましたし、子どもが 2 人いるのですが、ボードゲームを買ってきてはじめて 4 人で遊んで、妻から大変感謝されて、そういう貴重な時間になっているのかなと思いますので、決してこの間の時間を無駄にしないで、いろいろな気づきや学びを皆さんが得られていると思いますので、教育の質を更に高められるように前進したいと思います。

## ○島田委員

最初にこの GIGA スクール構想の資料を見たときに、時間割はどうなっていくんだろうと思いました。通常の対面の授業と同時に、このような ICT の活用もどんどん授業ごとに行われるのか、こういう授業もあるし ICT だけを使って自己学習をするような時間を設けるのか、どういう形になるのかというイメージが湧かなかったのですが、すごくいいと思ったのは成績等のデータを集めていくことによって今まで公立だとなかなかできなかった、進度の早い、興味関心のあるところに学年を超えて学びを深めていくことと、逆に自分で苦手だとか遅れだとかわかっていないけれど、人に聞けなかった子が自分でクリックすればそのところに戻れるというのはすごくいいところだと思います。大変期待しております。

## ○市長

ご指摘の規律、時間割だとか何時に登校するとか、何時から何時が休み時間ですとか、給食を時間のうちに食べましょうとか片付けましょうということは大事な教育だと思います。やはりコロナ禍で、私の子どもも YouTube ばかり見ていて朝起きないといったことになっていましたので、登校して集団学習、集団生活を送ることがやはりきわめて大事な

だということを私も気づきました。時間割や決まった時間にどうするかということ、どうやってこのタブレットを使ってやるか、出席を含めてですが、大きな課題だと思いますのでしっかり煮詰めたいと思います。

## ○山元委員

私はこの資料の中で一番心が動くのは、誰一人取り残すことのない学びというところです。子どもたちは100人いれば100通りですし、その中には学校に適應できない子、あるいは様々な個性や障がいによって、画一的な教育ではどうしても取り残されてしまう子どもたちがいるのが現実です。子どもたちにとってある意味でICTというのは救世主になる可能性が非常にあると思うので、その部分は各学校とも今後とも考えていかなければならないと思いつながりながら見ていました。

もう一つ、とても今話題になっていますが、ICTの推進、SNSも含めてですが、人の心をむしばんでしまうこともあるので、このあたりの教育も学校が担わなければならない責任になり、考えていかなければならないと感じました。

## ○市長

いつも教育長とお話しさせていただく際に、我々は公教育の限界に挑戦しようと意気投合しています。ICTは遅れている子どもを出さない、進んでいる子をもっと伸ばす、という可能性を秘めていると思います。そういう意味で、成績の良い子どもは私立の学校に行くということだけでなく、貧困家庭に対して高い月謝を払わないと受けられなかった教育がオンラインで受けられるようになる可能性もあるわけですから、いろいろな意味でこれまでできなかったことができるようになると期待を大いにしているのではないかと思いますので、そういう意味でやはり夢をもって前向きにチャレンジできるのではないかと思います。引き続きよろしく願います。

## ○大高委員

すばらしい構想なので、推進していただきたいと思います。一つ、データが大きくなればなるほど、セキュリティやデータ流出といった点が気になります。報道などを見ると、なぜそういったことが起きてしまうのかということが起きてしまっているの、しっかり管理していただければと思います。

## ○市長

ありがとうございます。セキュリティもそうですし、先ほど山元委員からSNSのお話があ

りましたけれど、思うのは匿名であれば何を発言してもいいということになっていますし、一回そこでインターネットに書き込めばそこにずっと残るという危うさをしっかり子どもたちに伝えないといけないですし、もしかしたら新しいいじめの道具になるやもしれないということをも十分踏まえて、繰り返しですけれど毒にも薬にもなりうるということをよく理解して仕事を進めなければいけないと思いますので、しっかりセキュリティとマナー、リテラシー、正しい使い方に関しては将来社会に出ていく上で重要なところだと思いますので、子どもに限らず大人も非常にマナーが崩れていて、モラルとか倫理というと大げさですけど、礼儀というのはどこに行ったんだと日々、仕事をしていて思います。ですので、せめて子どもたちにはそういう大人にならないように、しっかり教職員の皆様に配慮していただけると一大人としてありがたいと思っています。ありがとうございます。教育長、総括をお願いできますでしょうか。

## ○教育長

お話をお聞きして、GIGAスクール構想が整備されることにより、本日のテーマとなっている遠隔教育をはじめ、教育システムの大きな変革が期待できました。まずは必要な整備を進め、教職員や子どもが慣れていくことから始めなければなりません。皆さんからのご意見やご提言等を踏まえ、教育委員会としてICT教育の充実に努めてまいります。

二点、お話をさせていただきます。一つ目はICT教育の普及啓発において、市の情報政策部との連携、例えば学校へ市職員がゲストティーチャーとして出向き、ICT機器の活用方法や情報モラル等を学べるような取組を進められたらと思っています。もう一つは市内にも学習塾をはじめ多くの教育産業があります。そこの連携やノウハウの提供など、協定を結ぶことができれば、本市ICT教育のさらなる普及・充実に繋がるものと思います。

## ○市長

ありがとうございました。ただいまいただいた宿題ですが、情報政策部をはじめとした市長部局との連携というものはしっかり私のほうで指示をして進めてまいりたいと思いますし、市内にきわめて優れた教育産業、民間企業がありますので、どんどん連携して、タブレットはいろいろな使い方ができるでしょうから、その中身をどんどん提供していただく方向でしっかりと仕事をしたいと思いますので、ご指摘を踏まえて進めてまいりたいと思います。何か、委員の皆様から最後に付け加えておかなければいけないという方はご発言をお願いします

————— 意見無し —————

○市長

ありがとうございました。今日いただいた議論を踏まえ、さっそく仕事に取り掛かりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

これにて令和 2 年度第 1 回総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

————— 終了 —————